

豊中市のごみに関するアンケート調査結果

1. 調査の概要

(1) 目的

「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」の見直しにあたって、市民の日頃のごみに関する意識や取り組みの状況などについて調査を行い、今後の施策検討のための基礎資料とするために実施した。

(2) 調査対象

市民 1,000 人

【選定方法】 住民基本台帳から無作為抽出

【抽出条件】 市内に住む 18 歳以上の方

(3) 調査方法

回答は無記名とし、令和4年8月29日～9月23日を調査期間として郵送による配布、郵送・WEB・で回収を実施。なお、調査期間を超えて返送された調査票についても、集計対象としている。

(4) 調査項目

- 回答者の属性
- ごみ減量・リサイクルの取り組みについて
 - ・ごみ減量やリサイクルに関して実践しているもの
 - ・比較的取り組みやすいと思うもの
 - ・食品ロスが出ないように取り組んでいること
 - ・プラスチックの削減やリサイクルに取り組んでいること
- 事業者のごみ減量の取り組みについて
 - ・お店で食品を購入する際の考え
 - ・食べ残しを減らすため、飲食店での提供方法についての考え
- 豊中市のごみに関する取り組みについて
 - ・豊中市のごみに関する取り組みについての認知度・参加状況
 - ・廃棄物減量等推進員の活動について
- ごみ分別などの情報の入手等について
 - ・どのような情報をより知りたいか（分別方法、排出方法・排出場所）
 - ・ごみに関する情報について、どういった方法だと伝わりやすいと思うか
 - ・ごみの出し方や分別方法がわからないときは、どのようにするか
- その他
 - ・ごみ減量対策として有効と思われるもの
 - ・リチウムイオン電池などによる発火についての認知状況
 - ・新型コロナウイルス感染拡大に伴うライフスタイルとごみの発生状況の変化

(5) 回収の結果

配布数： 1,000 人

有効回収数： 463 票

有効回答率： 46.3%

(6) 留意点

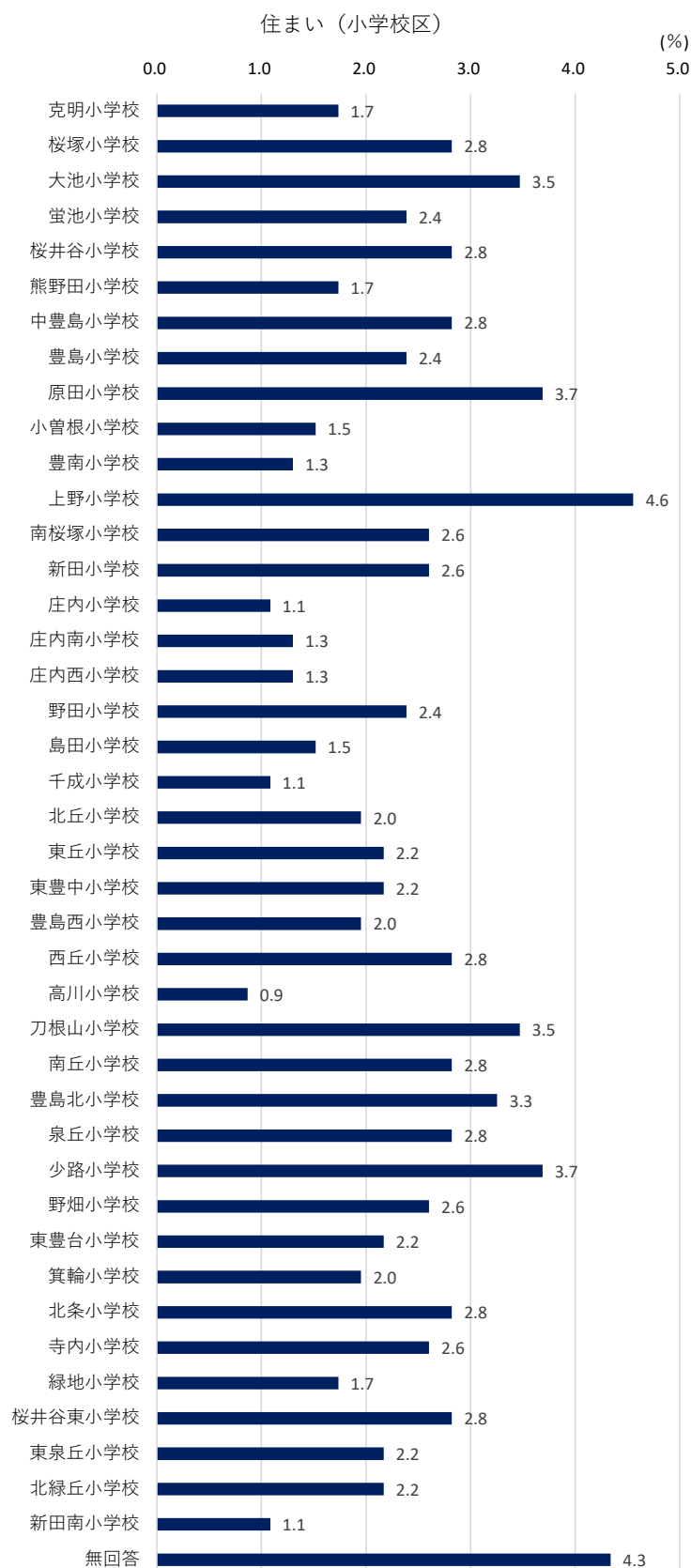
- ・集計では、四捨五入の都合上、数値の合計が 100%にならない場合がある。
- ・グラフ中の N とは、回答者数を表し、無回答を含むが、無効回答を含まない。

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

① 住まい（小学校区）

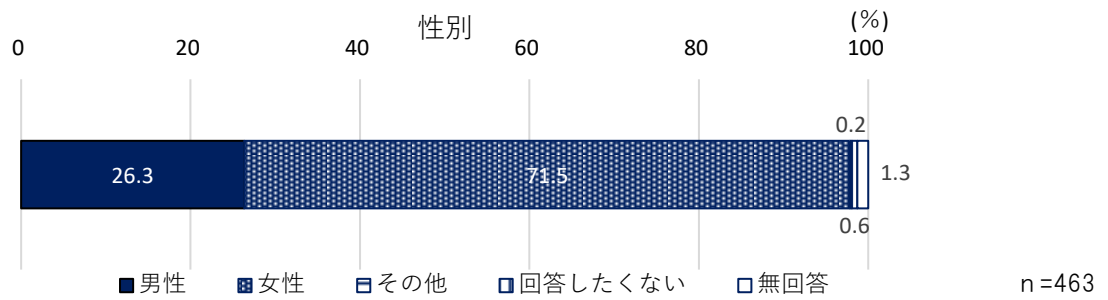
住まいは、「上野小学校区」が4.6%と最も多く、「原田小学校区」及び「少路小学校区」が3.7%、「大池小学校区」及び「刀根山小学校区」が3.5%となっている。



n=463

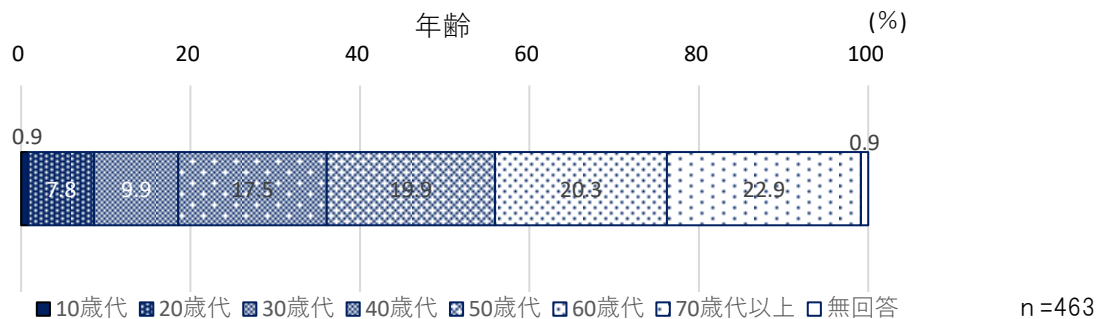
②性別

性別は、「女性」が71.5%、「男性」が26.3%であった。



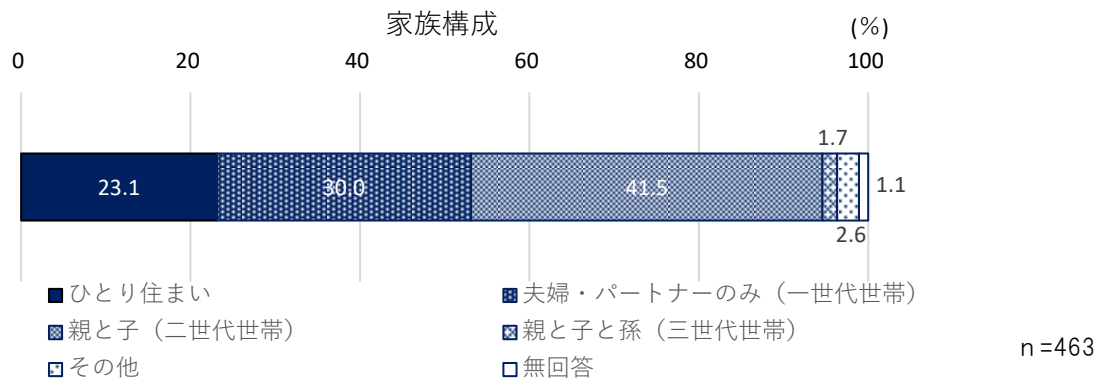
③年齢

年齢は、「70歳代以上」が22.9%と最も多く、「60歳代」が20.3%、「50歳代」が19.9%となっている。



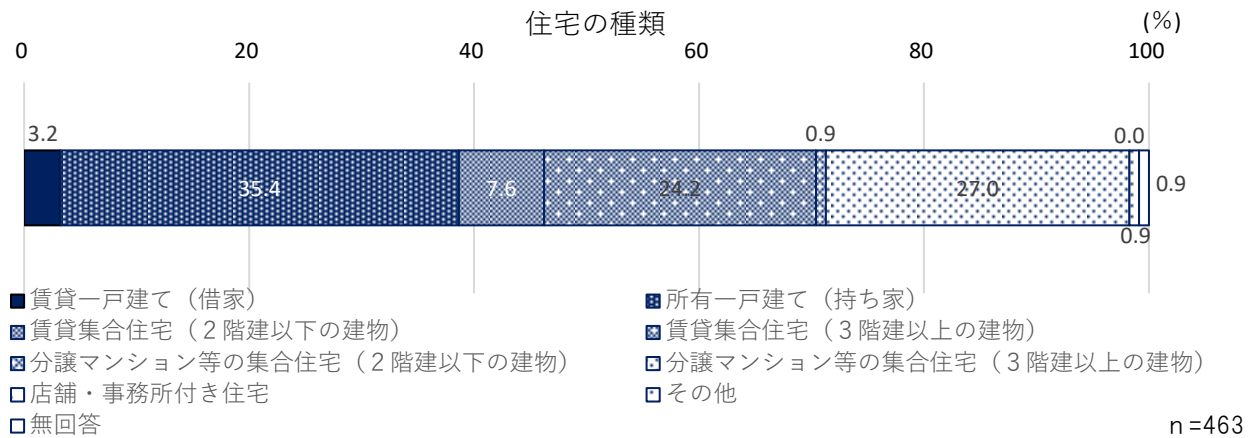
④家族構成（同居されている方）

家族構成は、「親と子（二世帯世帯）」が41.5%と最も多く、次いで「夫婦・パートナーのみ（一世帯世帯）」が30.0%、「ひとり住まい」が23.1%となっている。



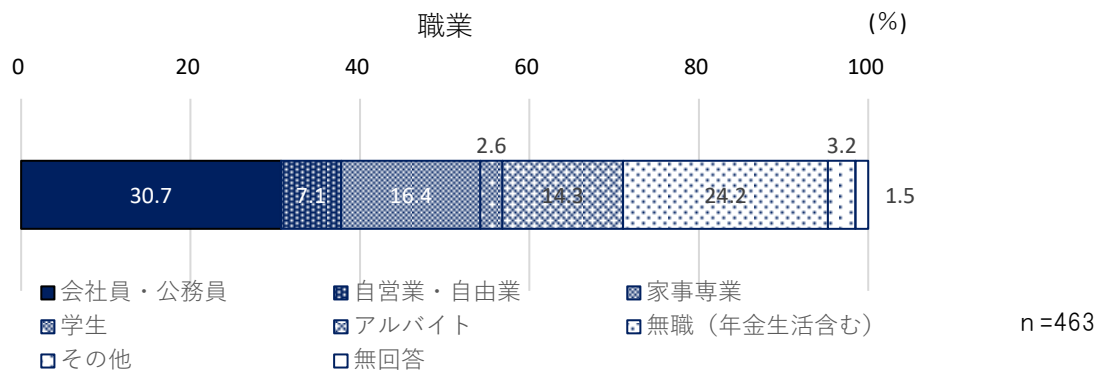
⑤住宅の種類

住宅の種類は、「所有一戸建て（持ち家）」が35.4%と最も多く、次いで「分譲マンション等の集合住宅（3階建以上の建物）」が27.0%、「賃貸集合住宅（3階建以上の建物）」が24.2%となっている。



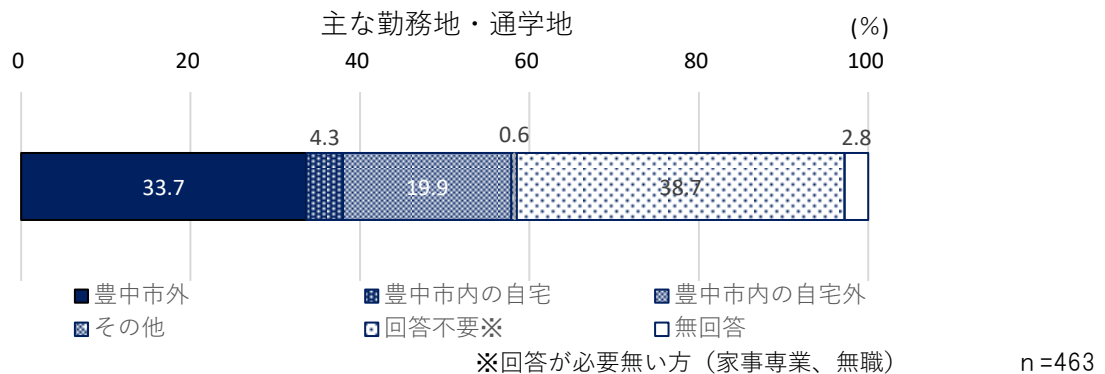
⑥職業

職業は、「会社員・公務員」が30.7%と最も多く、次いで「無職（年金生活含む）」が24.2%、「家事専業」が16.4%となっている。



⑦主な勤務地・通学地

主な勤務地・通学地は、家事専業及び無職の「回答が必要無い方」が38.7%と最も多く、次いで「豊中市外」が33.7%、「豊中市内の自宅外」が19.9%となっている。



(2) ごみ減量・リサイクルの取組みについて

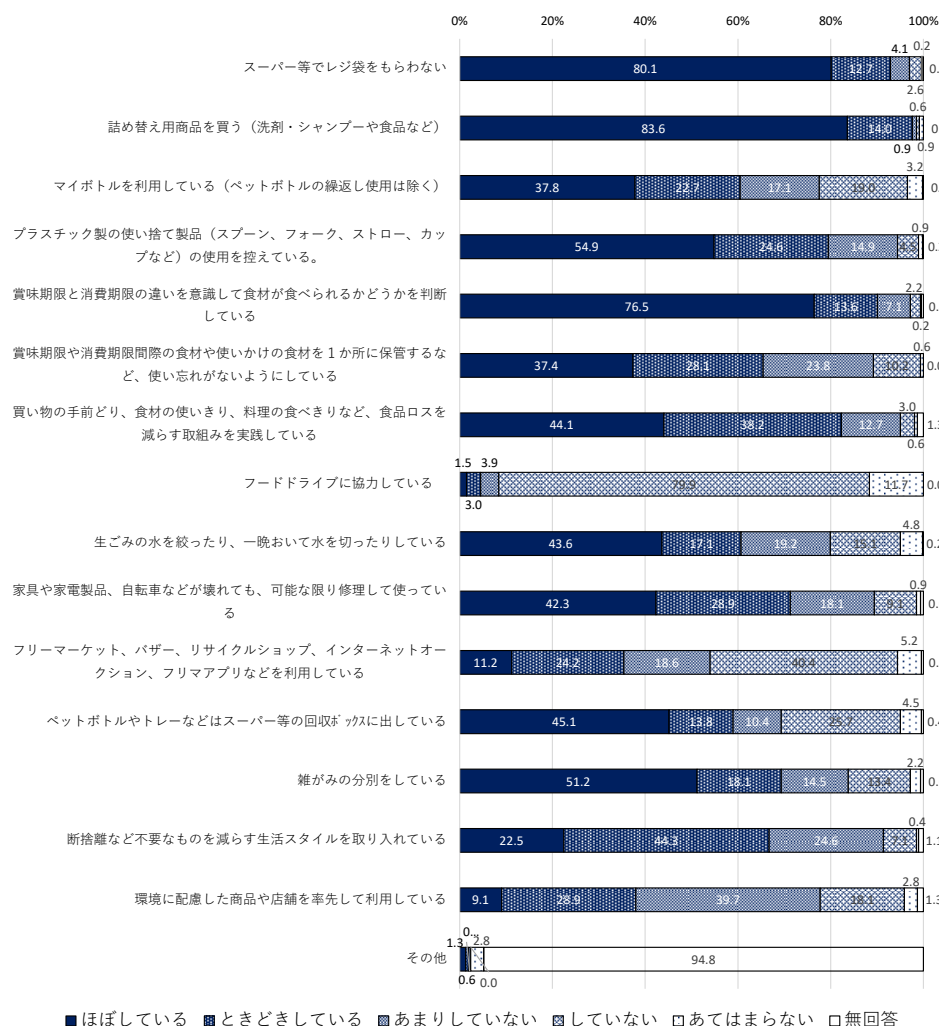
①ごみ減量やリサイクルに関して実践しているもの

問 1 次のごみ減量やリサイクルに関する取組みについて、実践しているものを選んでください。
各取組みについて、あてはまるものに1つずつ○をしてください。
なお、回答される方が買い物や料理、ごみ出しを行っていないなど各取組みを行う機会がない場合は「あてはまらない」を選んでください。

ごみ減量やリサイクルに関して「実践している（「ほぼしている」「ときどきしている」の合計）」ものは、「詰め替え用商品を買う（洗剤・シャンプーや食品など）」が97.6%と最も多く、次いで「スーパー等でレジ袋をもらわない」が92.9%、「賞味期限と消費期限の違いを意識して食材が食べられるかどうかを判断している」が90.1%、「買い物の手前どり、食材の使いきり、料理の食べきりなど、食品ロスを減らす取組みを実践している」が82.3%となっている。

ごみ減量やリサイクルに関して「実践していない（「していない」「あまりしていない」の合計）」ものは、「フードドライブに協力している」が83.8%と最も多く、次いで「フリーマーケット、バザー、リサイクルショップ、インターネットオークション、フリマアプリなどを利用している」が59.0%、「環境に配慮した商品や店舗を率先して利用している」が57.9%となっている。

ごみ減量やリサイクルに関して実践しているもの



n=463

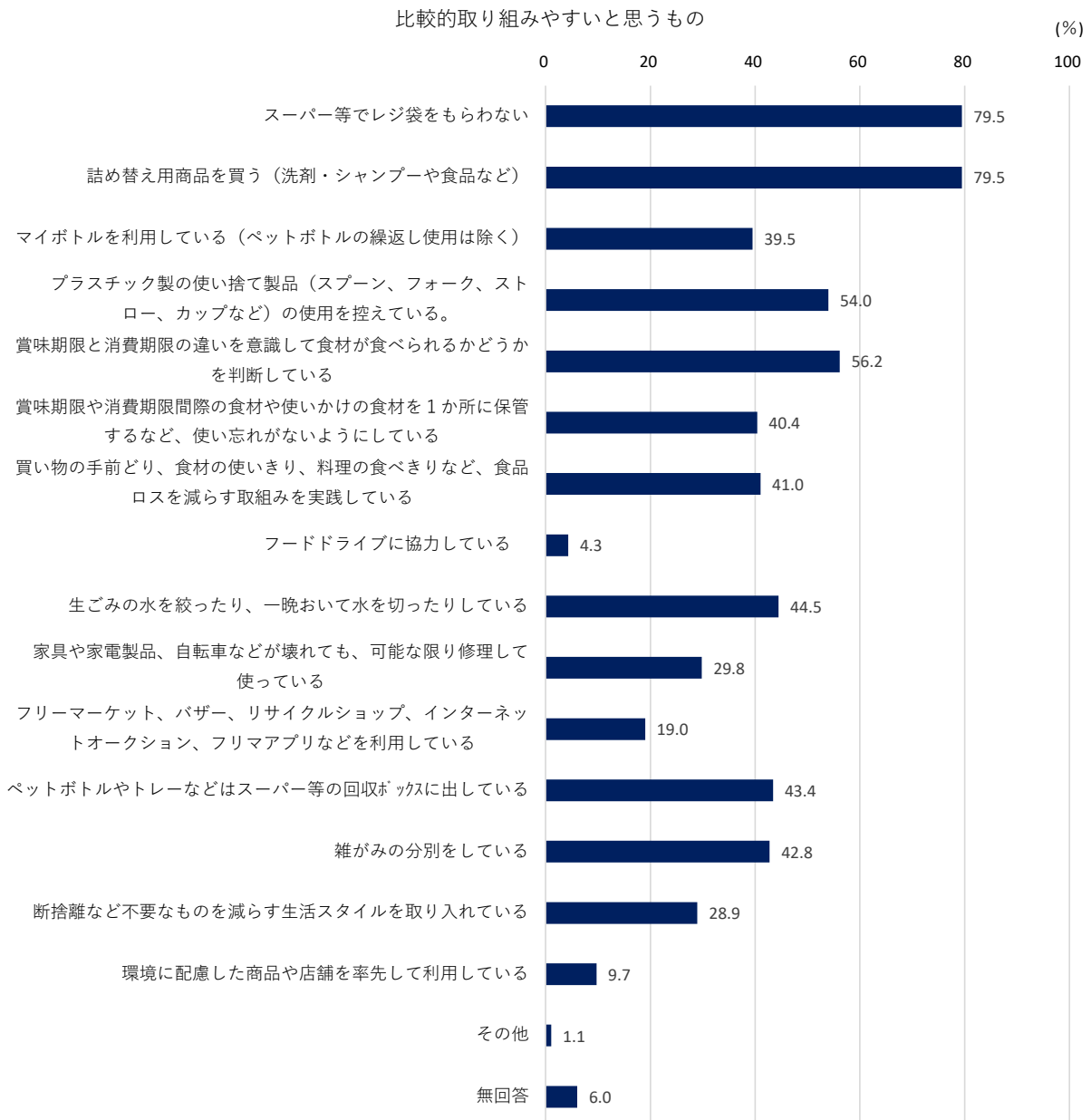
②比較的取組みやすいと思うもの

問 2 前問の取組みのなかで、比較的取組みやすいと思うものを選んでください。

問 1 の取組みのあてはまる番号すべてに○をしてください。

ごみ減量やリサイクルに関して「比較的取組みやすいと思うもの」ものは、「スーパー等でレジ袋をもらわない」及び「詰め替え用商品を買う（洗剤・シャンプーや食品など）」が 79.5%と最も多く、次いで「賞味期限と消費期限の違いを意識して食材が食べられるかどうかを判断する」が 56.2%、「プラスチック製の使い捨て製品の使用を控える」が 54.0%となっている。

また、ごみ減量やリサイクルに関して「比較的取組みやすいと思うもの」ものに対して回答数が少なかったのは、「フードドライブへの協力」が 4.3%と最も少なく、次いで「環境に配慮した商品や店舗の率先利用」が 9.7%、「フリーマーケット、バザー、リサイクルショップ、インターネットオークション、フリマアプリなどの利用」が 19.0%となっている。



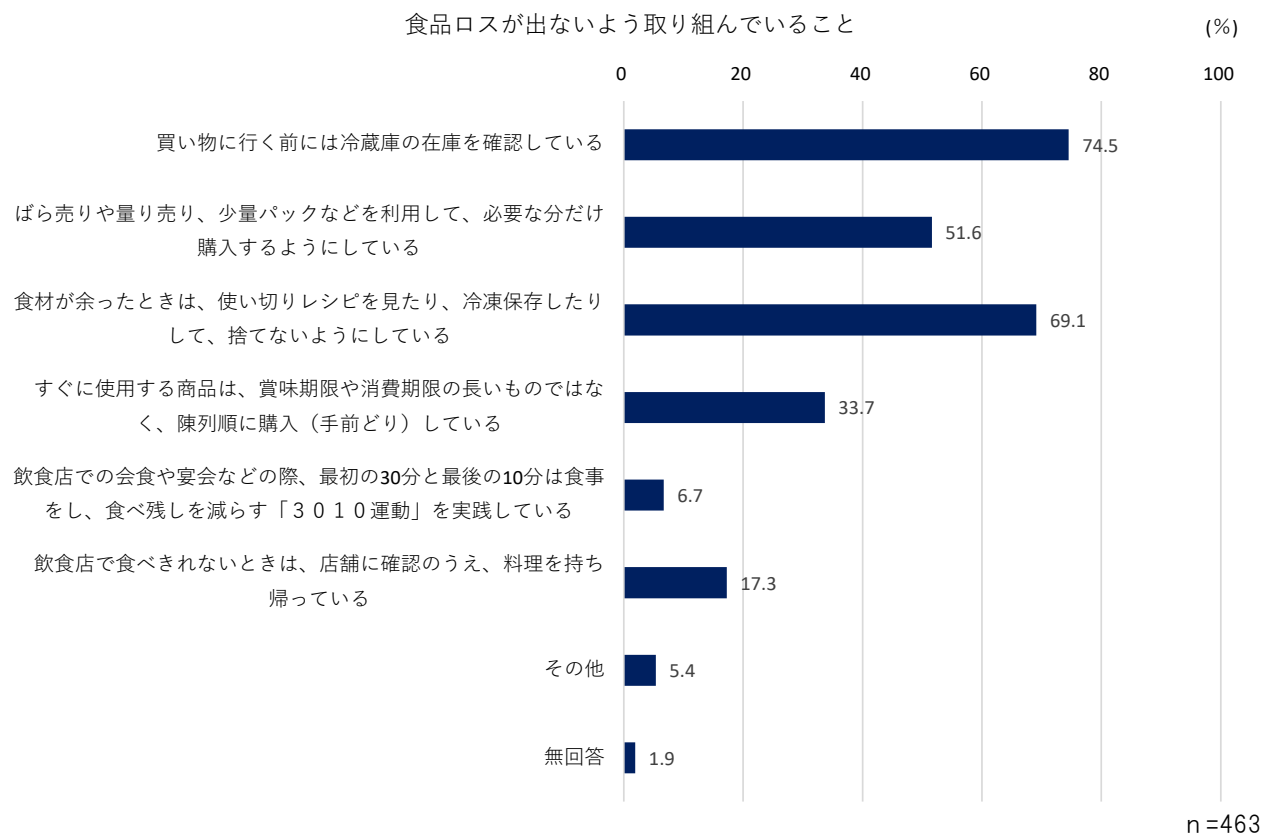
n=463

③食品ロスが出ないよう取り組んでいること

問 3 本来食べられるにも関わらず廃棄される「食品ロス」が社会的に問題となっており、本市でも、家庭から排出されるごみの約 18%が食品ロスで、事業系と合わせると年間約 16,000 トンが捨てられていると推計しています。このような食品ロスが出ないよう取り組んでいることはありますか。 あてはまるものすべてに○をしてください。

食品ロスが出ないよう取り組んでいることは、「買い物に行く前には冷蔵庫の在庫を確認している」が 74.5%と最も多く、次いで「食材が余ったときは、使い切りレシピを見たり、冷凍保存したりして、捨てないようにしている」が 69.1%、「ばら売りや量り売り、少量パックなどを利用して、必要な分だけ購入するようにしている」が 51.6%となっている。

また、食品ロスが出ないよう取り組んでいることに対して回答数が少なかったのは、「飲食店での会食や宴会などの際、最初の 30 分と最後の 10 分は食事をし、食べ残しを減らす「3010 運動」を実践している」が 4.3%と最も少なく、次いで「飲食店で食べきれないときは、店舗に確認のうえ、料理を持ち帰っている」が 17.3%、「すぐに使用する商品は、賞味期限や消費期限の長いものではなく、陳列順に購入（手前どり）している」が 33.7%となっている。

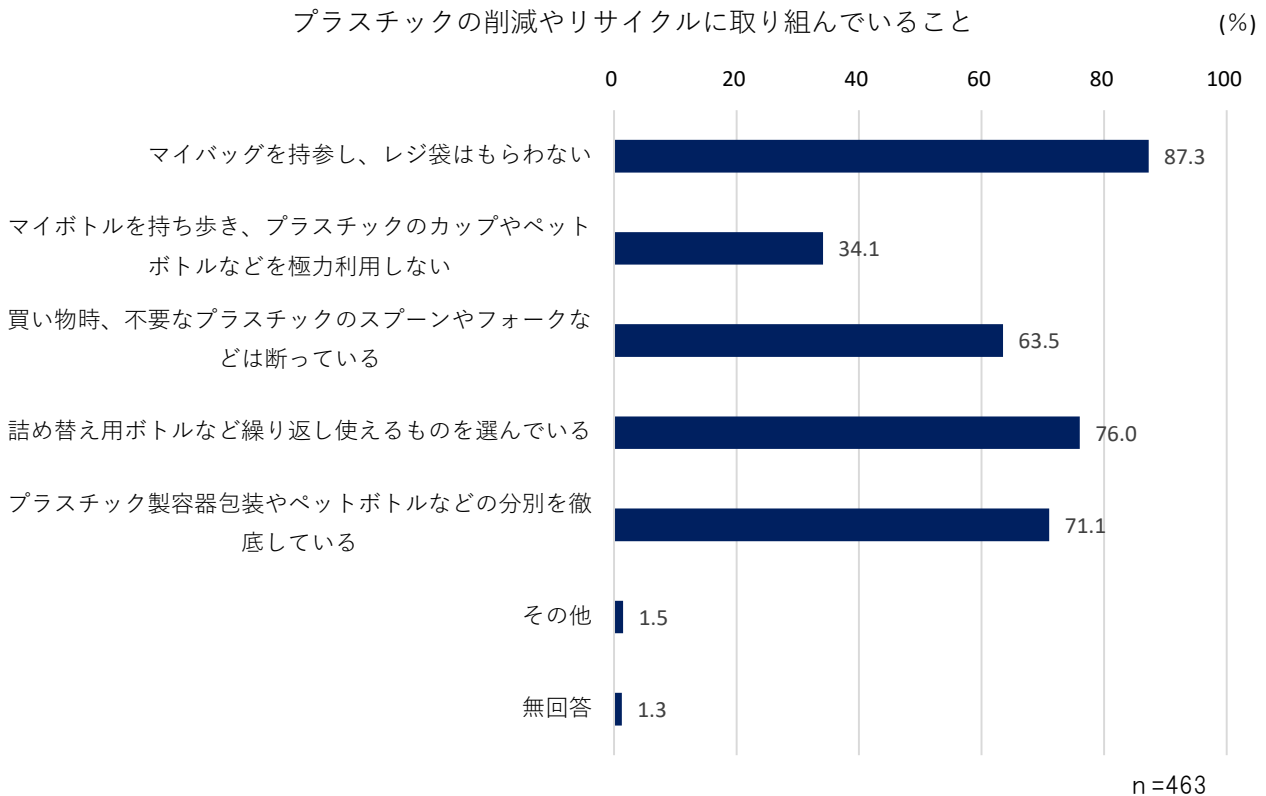


④プラスチックの削減やリサイクルに取り組んでいること

問 4 近年、海洋に流れたプラスチックが生態系を含めた海洋環境へ影響を及ぼすなど、世界的にプラスチックごみが大きな問題となっています。プラスチックの削減やリサイクルに取り組んでいることはありますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

プラスチックの削減やリサイクルに取り組んでいることは、「マイバッグを持参し、レジ袋はもらわない」が 87.3%と最も多く、次いで「詰め替え用ボトルなど繰り返し使えるものを選んでいる」が 76.0%、「買い物時、不要なプラスチックのスプーンやフォークなどは断っている」が 63.5%となっている。

また、プラスチックの削減やリサイクルに取り組んでいることに対して回答数が少なかったのは、「マイボトルを持ち歩き、プラスチックのカップやペットボトルなどを極力利用しない」が 34.1%と最も少なくなっている。



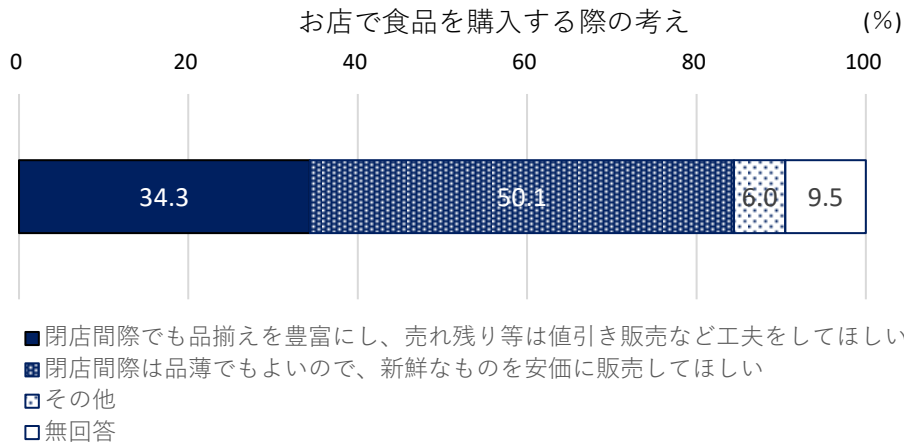
(3) 事業者のごみ減量の取組みについて

①お店で食品を購入する際の考え

問 5 お店等での販売方法についてお聞きします。食品を購入する際に、次の回答の中であなたの考えに最も近いものを選んでください。

あてはまるもの1つに○をしてください。

お店で食品を購入する際の考えは、「閉店間際は品薄でもよいので、新鮮なものを安価に販売してほしい」が50.1%と最も多く、「閉店間際でも品揃えを豊富にし、売れ残り等は値引き販売など工夫をしてほしい」が34.3%となっている。

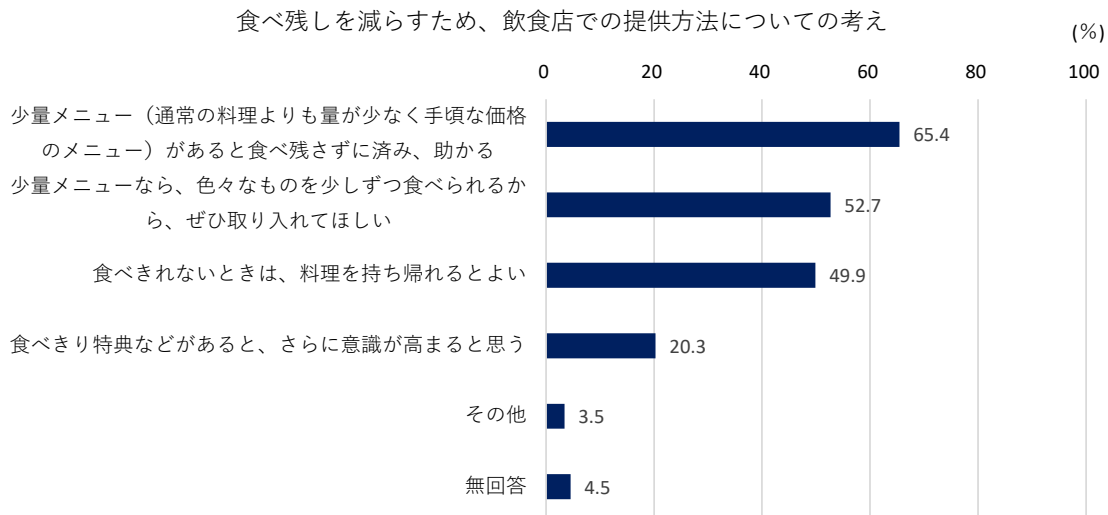


②食べ残しを減らすため、飲食店での提供方法についての考え

問 6 食べ残しを減らすため、飲食店での提供方法についてお聞きします。次の回答の中であなたの考えに近いものを選んでください。

あてはまるものすべてに○をしてください。

食べ残しを減らすため、飲食店での提供方法についての考えは、「少量メニュー（通常の料理よりも量が少なく手頃な価格のメニュー）があると食べ残さずに済み、助かる」が65.4%と最も多く、次いで「少量メニューなら、色々なものを少しずつ食べられるから、ぜひ取り入れてほしい」が52.7%、「食べきれないときは、料理を持ち帰るとよい」が49.9%となっている。



(4) 豊中市のごみに関する取組みについて

① 豊中市のごみに関する取組みについての認知度・参加状況

問 7 豊中市が行うごみに関するさまざまな取組みについて、「知っている」、「利用したことがある」、「今後利用してみたい」かどうかについて、お答えください。

各取組みについて、あてはまる場合は○をしてください。

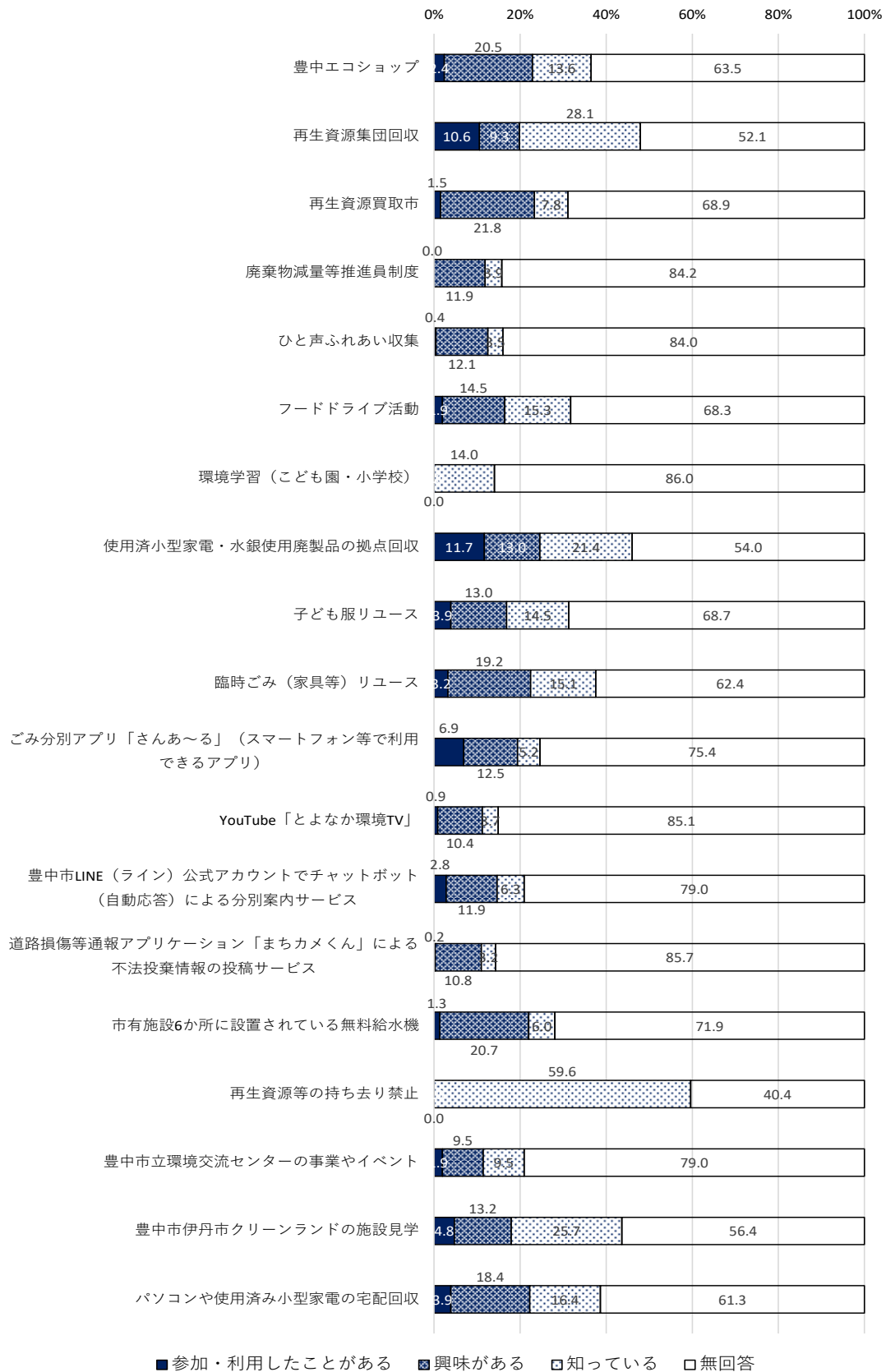
豊中市のごみに関する取組みについて「知っている」ものは、「再生資源等の持ち去り禁止」が 59.6%と最も多く、次いで「再生資源集団回収」が 28.1%、「使用済小型家電・水銀使用廃製品の拠点回収」が 21.4%となっている。

豊中市のごみに関する取組みについて「参加・利用したことがある」ものは、「使用済小型家電・水銀使用廃製品の拠点回収」が 11.7%と最も多く、次いで「再生資源集団回収」が 10.6%となっている。

豊中市のごみに関する取組みについて「興味がある」ものは、「再生資源買取市」が 21.8%と最も多く、次いで「市有施設 6 か所に設置されている無料給水機」が 20.7%、「豊中エコショップ」が 20.5%、「臨時ごみ（家具等）リユース」が 19.2%となっている。

なお、回答状況から本設問は、「知っている」、「利用したことがある」、「今後利用してみたい」の 3 つの選択肢から 1 つを選択する単一回答設問として集計した。

豊中市が行うごみに関する取組みについて



n=463

②廃棄物減量等推進員の活動について

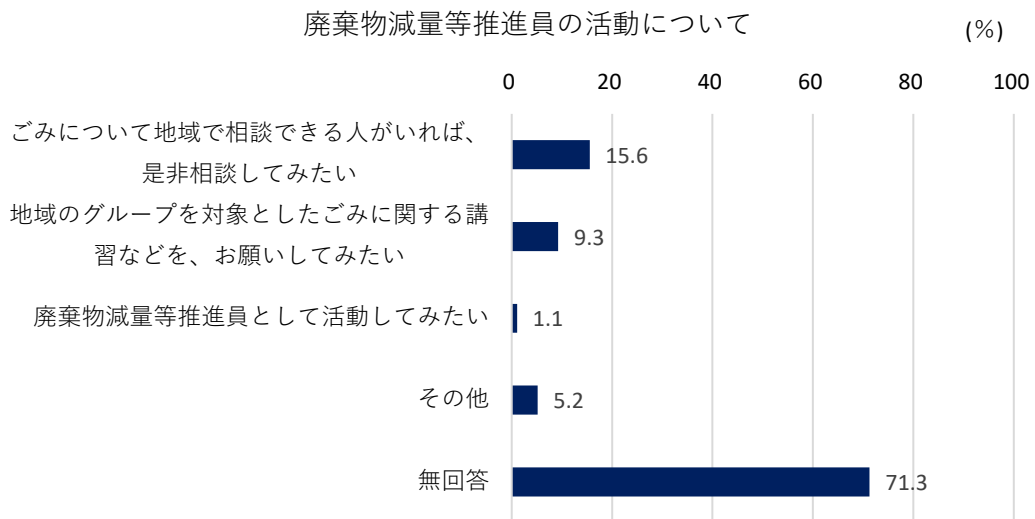
問 8 豊中市では、市民の自主的活動として、市と連携し地域に密着したごみの減量やリサイクルを進める「廃棄物減量等推進員制度」を行っています。

「廃棄物減量等推進員」は、市と地域のパイプ役として、ごみ分別の出前講座等への参加や、ごみステーションでの分別周知活動などを行っています。

豊中市の「廃棄物減量等推進員」の活動についてご意見をお聞かせください。

あてはまるものすべてに○をしてください。

廃棄物減量等推進員の活動については、「ごみについて地域で相談できる人がいれば、是非相談してみたい」が15.6%と最も多く、次いで「地域のグループを対象としたごみに関する講習などを、お願いしてみたい」が9.3%となっている。



n=463

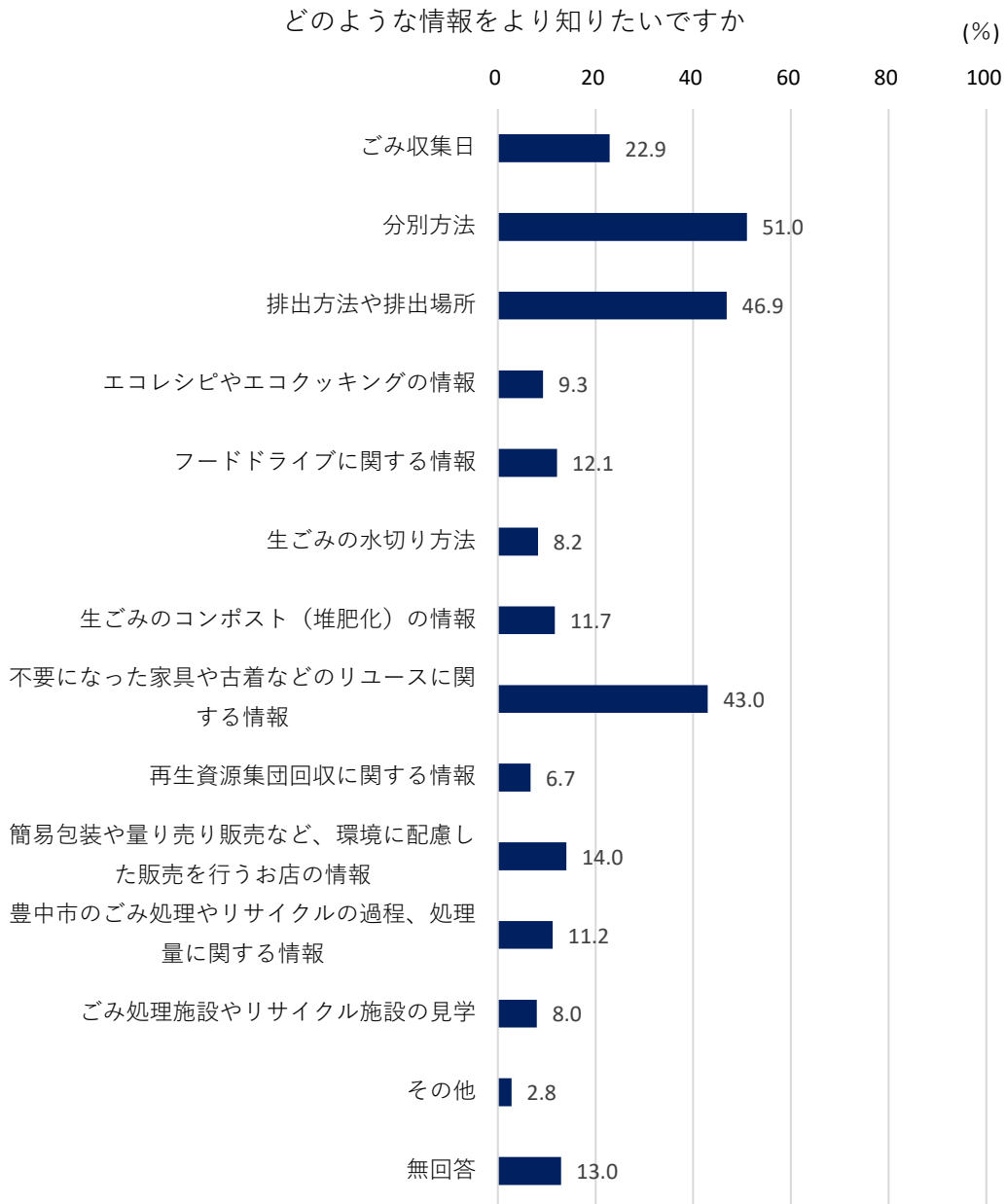
(5) ごみの分別などの情報の入手等について

① どのような情報をより知りたいか

問 9 ごみに関することで、どのような情報をより知りたいですか。

あてはまるものすべてに○をしてください。

ごみに関することでどのような情報をより知りたいかについては、「分別方法」が 51.0%と最も多く、次いで「排出方法や排出場所」が 46.9%、「不要になった家具や古着などのリユースに関する情報」が 43.0%となっている。



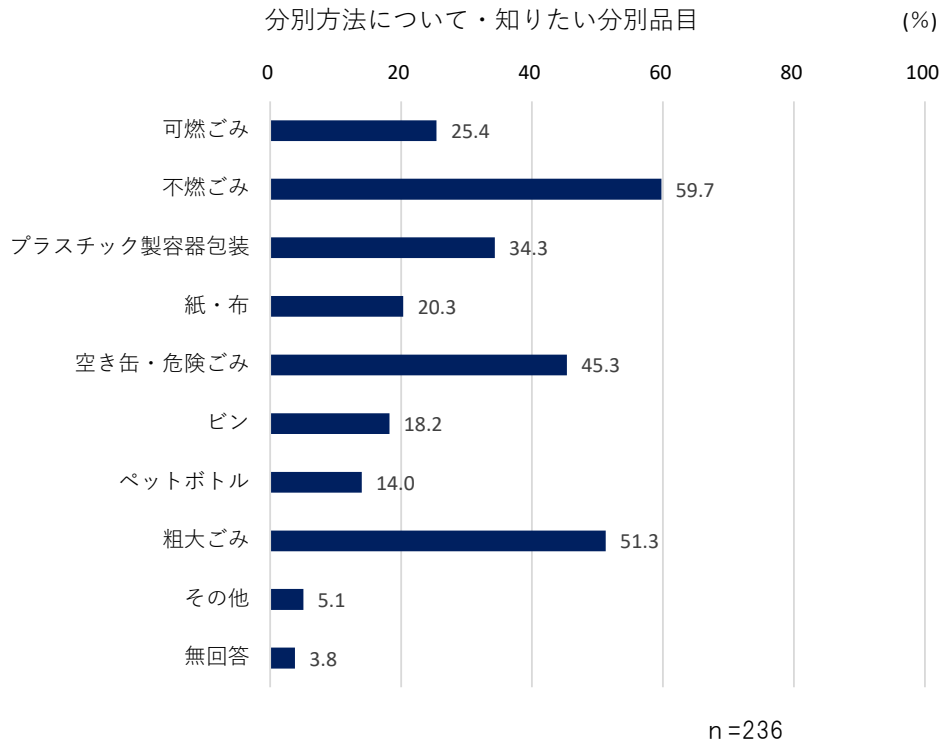
n=463

②分別方法について知りたい分別品目

問 9 - 1 分別方法について知りたい分別品目に○をしてください。

あてはまるものすべてに○をしてください。

分別方法について知りたい分別品目については、「不燃ごみ」が59.7%と最も多く、次いで「粗大ごみ」が51.3%、「空き缶・危険ごみ」が45.3%となっている。

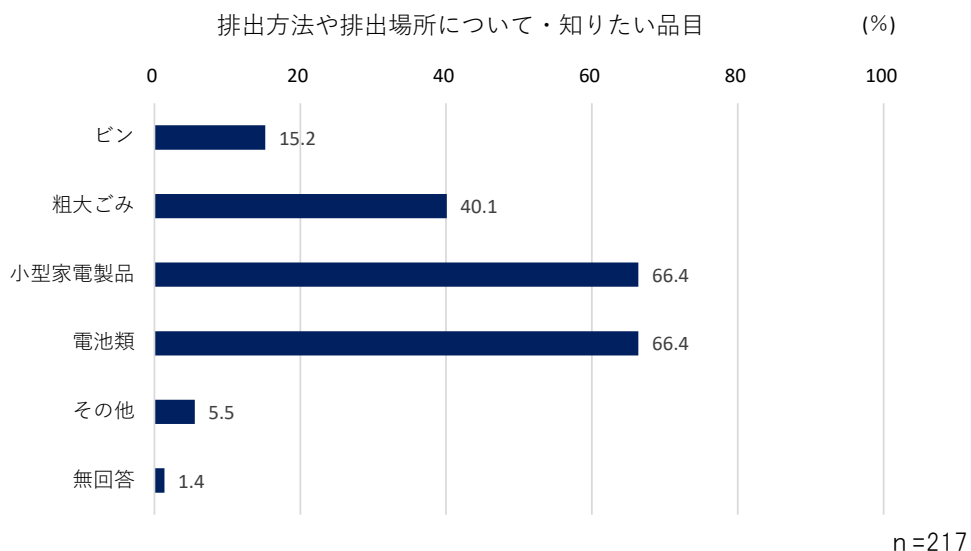


③排出方法や排出場所を知りたい分別品目

問 9 - 2 排出方法や排出場所について、知りたい品目に○をしてください。

あてはまるものすべてに○をしてください。

排出方法や排出場所を知りたい分別品目については、「小型家電製品」及び「電池類」が66.4%と最も多く、次いで「粗大ごみ」が40.1%となっている。

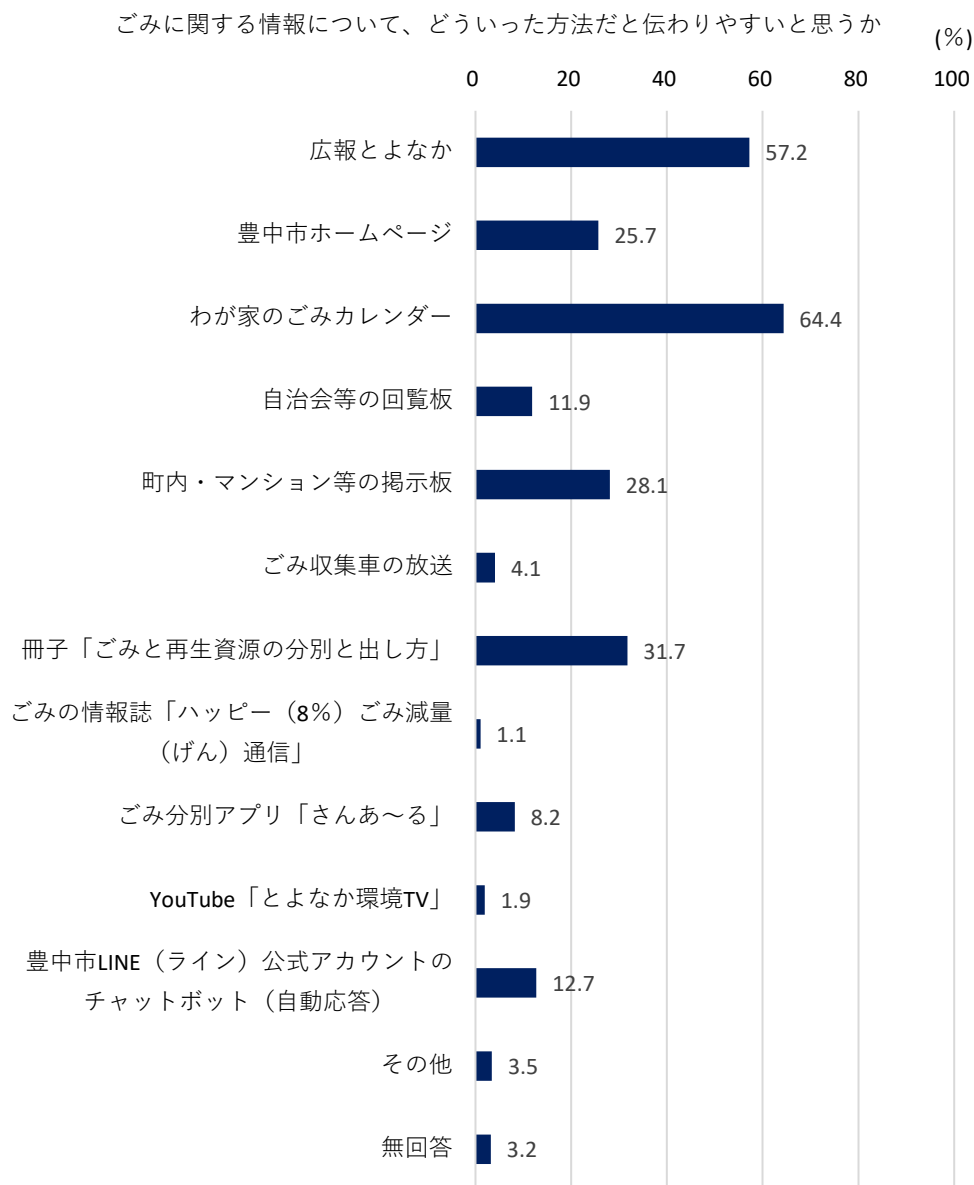


④ごみに関する情報について、どういった方法だと伝わりやすいと思うか

問 10 ごみの収集日や、紙・布などの集団回収の回収日・回収場所など、お住まいの地域でのごみに関する情報について、どういった方法で広報すれば、伝わりやすいと思いますか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

ごみに関する情報についてどういった方法だと伝わりやすいと思うかについては、「わが家のごみカレンダー」が64.4%と最も多く、次いで「広報とよなか」が57.2%となっている。

また、ごみに関する情報についてどういった方法だと伝わりやすいと思うかに対して回答数が少なかったのは、「ごみの情報誌ハッピー（8%）ごみ減量（げん）通信」が1.1%と最も少なく、次いでYouTube「とよなか環境TV」が1.9%、「ごみ収集車の放送」が4.1%となっている。



n=463

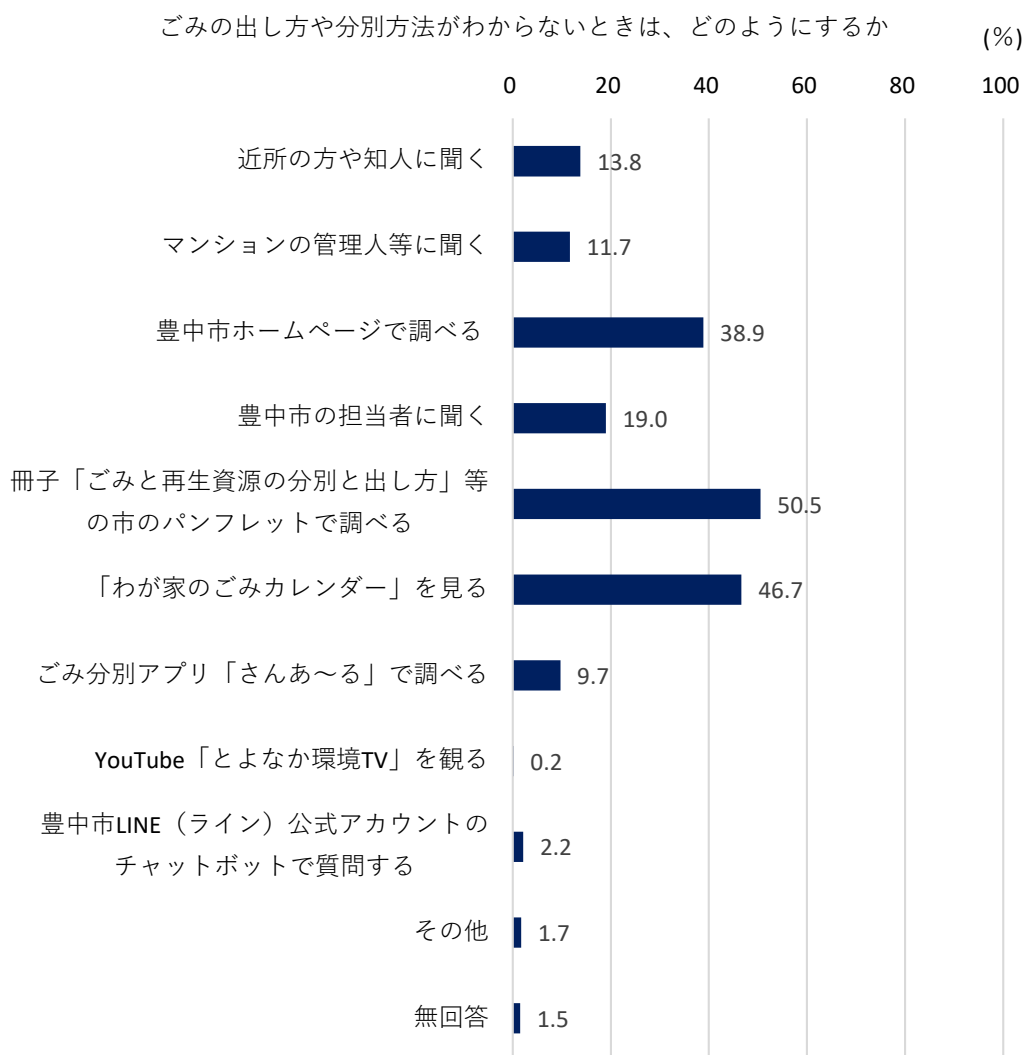
⑤ごみの出し方や分別方法がわからないときは、どのようにするか

問 11 ごみの出し方や分別方法がわからないときは、どのようにされていますか？

あてはまるものすべてに○をしてください。

ごみの出し方や分別方法がわからないときどのようにするかについては、「冊子ごみと再生資源の分別と出し方等の市のパンフレットで調べる」が 50.5%と最も多く、次いで「わが家のごみカレンダーを見る」が 46.7%、「豊中市ホームページで調べる」が 38.9%となっている。

また、ごみの出し方や分別方法がわからないときどのようにするかに対して回答数が少なかったのは、「YouTube とよなか環境 TV を観る」が 0.2%と最も少なく、次いで「豊中市 LINE（ライン）公式アカウントのチャットボットで質問する」が 2.2%となっている。



n=463

(6) その他

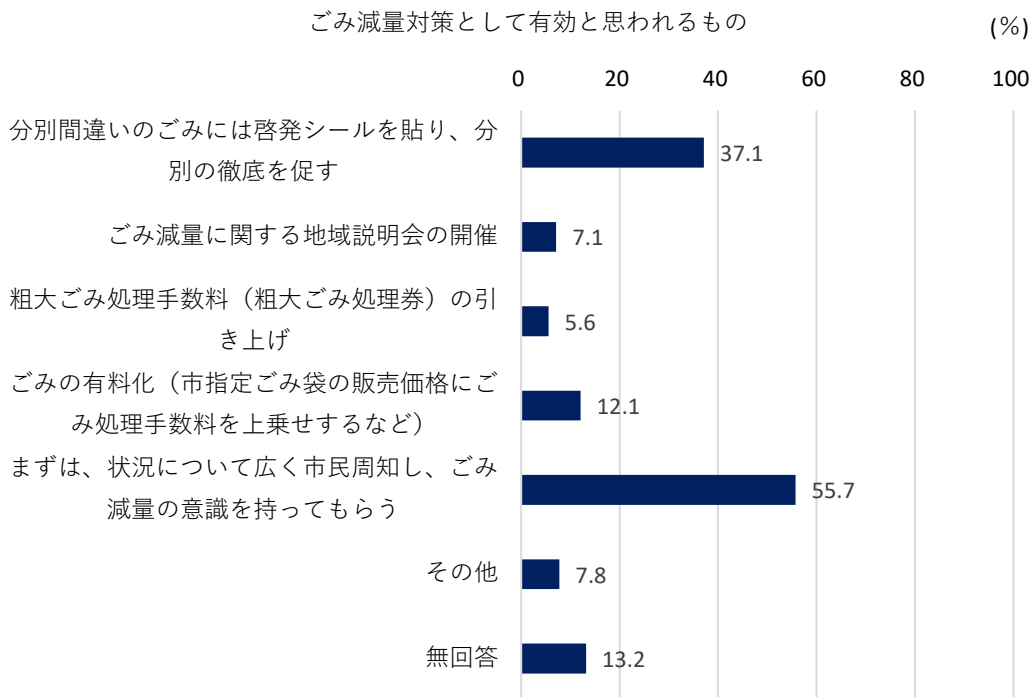
①ごみ減量対策として有効と思われるもの

問 12 コロナ禍により在宅機会が増え、家庭から排出されるごみは増加傾向にあります。引き続きごみの減量に取り組んでいく必要がありますが、ごみ減量対策として有効と思われるものを選んでください。

あてはまるものすべてに○をしてください。

ごみ減量対策として有効と思われるものについては、「まずは、状況について広く市民周知し、ごみ減量の意識を持ってもらう」が55.7%と最も多く、次いで「分別間違いのごみには啓発シールを貼り、分別の徹底を促す」が37.1%となっている。

また、ごみ減量対策として有効と思われるものに対して回答数が少なかったのは、「粗大ごみ処理手数料（粗大ごみ処理券）の引き上げ」が5.6%と最も少なく、次いで「ごみ減量に関する地域説明会の開催」が7.1%となっている。

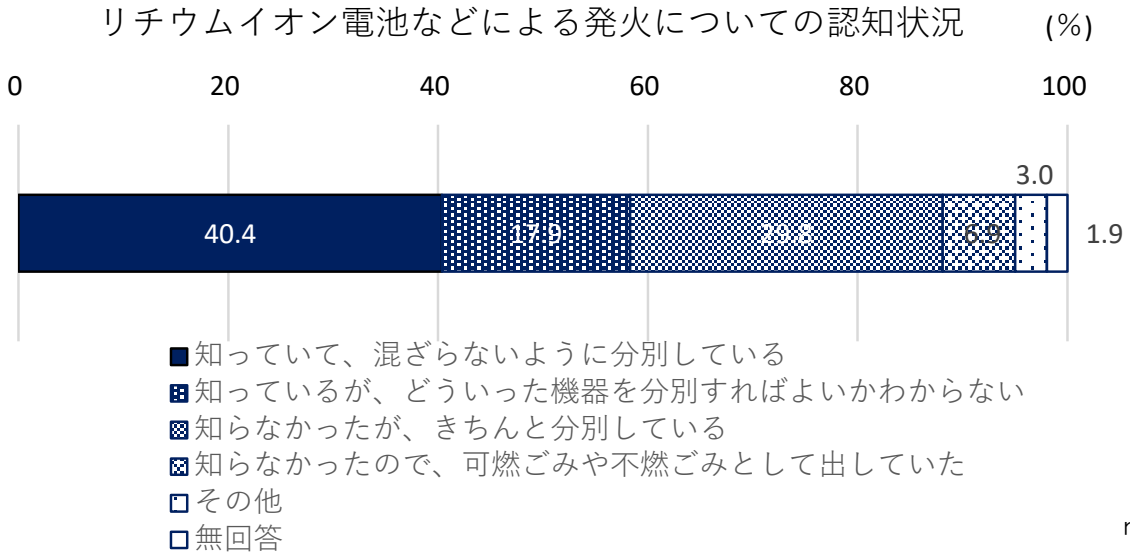


n=463

②リチウムイオン電池などによる発火についての認知状況

問 13 リチウムイオン電池などの充電電池が内蔵された機器をごみの中に混ぜて出すと、衝撃などで発火することがあり、大変危険です。それらの混入により、ごみ収集車や豊中市伊丹市クリーンランド（中間処理施設）で火災等が多発していることを知っていますか。
 あてはまるもの1つに○をしてください。

リチウムイオン電池などによる発火についての認知状況については、「知っていて、混ぜられないように分別している」が40.4%と最も多く、次いで「知らなかったが、きちんと分別している」が29.8%となっている。



③新型コロナウイルス感染拡大に伴うライフスタイルとごみの発生状況の変化

問 14 新型コロナウイルス感染拡大に伴う、あなたのライフスタイルとごみの発生状況の変化について教えてください。感染拡大前(令和元年(2019年)12月頃以前)との比較で回答してください。
「令和2年度」、「令和3年度」、「収束後の見込み」、それぞれ1つに○をしてください。

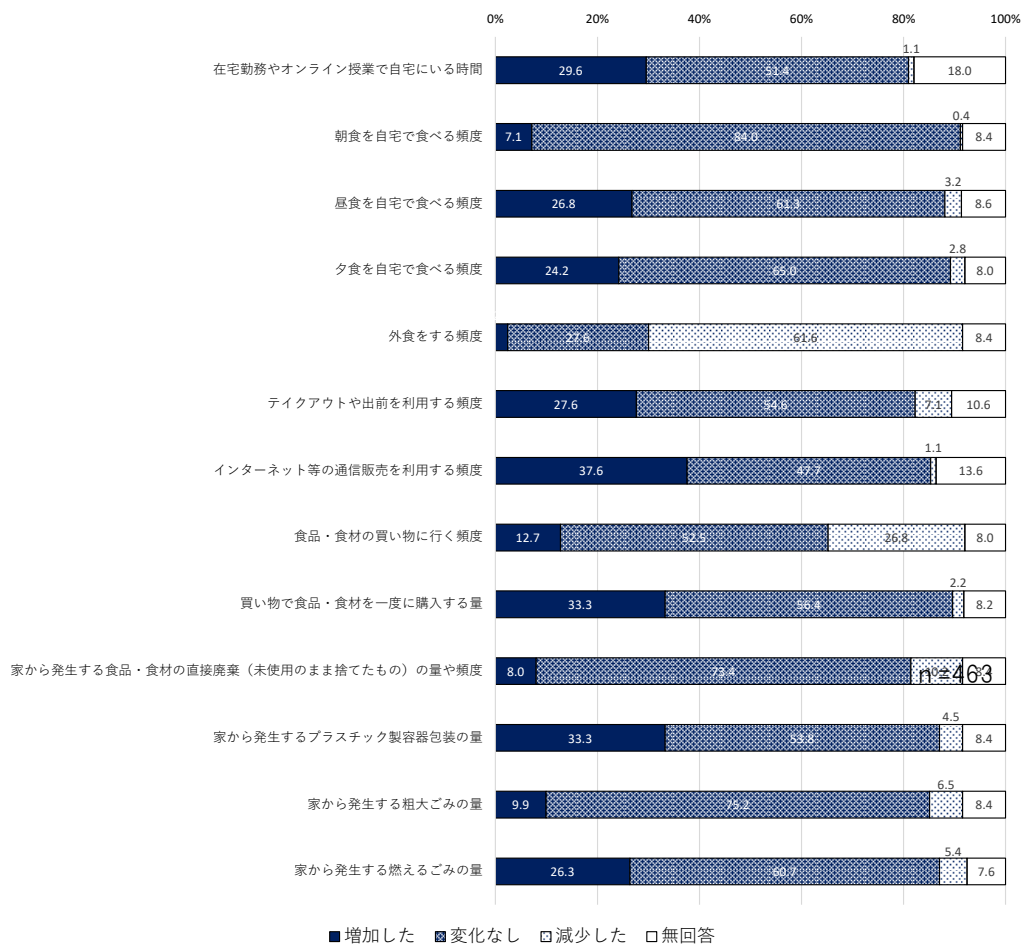
●令和2年度

ライフスタイルとごみの発生状況で「増加した」ものは、「インターネット等の通信販売を利用する頻度」が37.6%と最も多く、次いで「買い物で食品・食材を一度に購入する量」及び「家から発生するプラスチック製容器包装の量」が33.3%、「在宅勤務やオンライン授業で自宅にいる時間」が29.6%となっている。

ライフスタイルとごみの発生状況で「変化なし」ものは、「朝食を自宅で食べる頻度」が84.0%と最も多く、次いで「家から発生する粗大ごみの量」が75.2%、「家から発生する食品・食材の直接廃棄(未使用のまま捨てたもの)の量や頻度」が73.4%となっている。

ライフスタイルとごみの発生状況で「減少した」ものは、「外食をする頻度」が61.6%と最も多く、次いで「食品・食材の買い物に行く頻度」が26.8%となっている。

新型コロナウイルス感染拡大に伴うライフスタイルの変化<令和2年度(2020年度)>



n=463

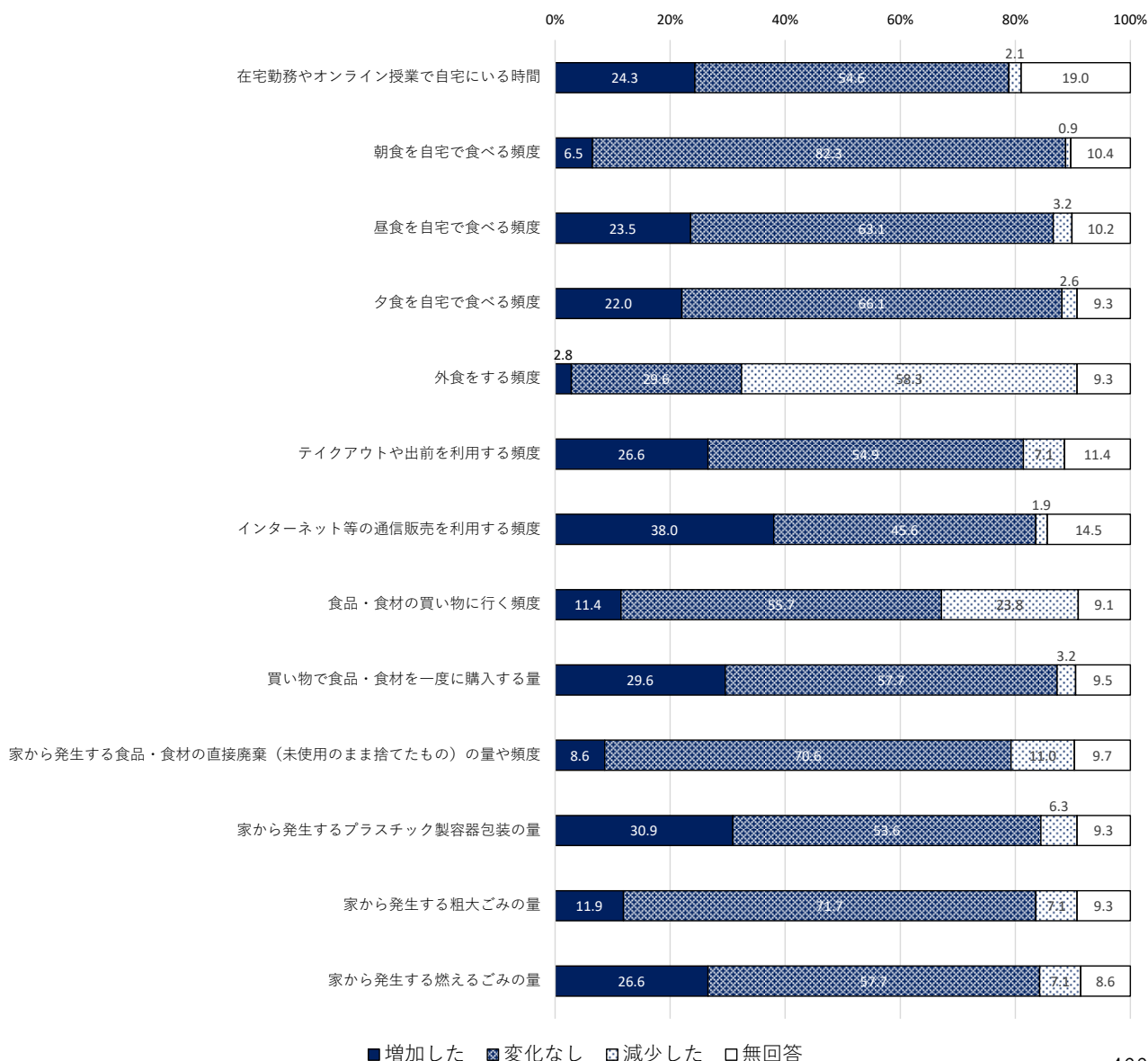
●令和3年度

ライフスタイルとごみの発生状況で「増加した」ものは、「インターネット等の通信販売を利用する頻度」が38.0%と最も多く、次いで「家から発生するプラスチック製容器包装の量」が30.9%、「買い物で食品・食材を一度に購入する量」が29.6%となっている。

ライフスタイルとごみの発生状況で「変化なし」ものは、「朝食を自宅で食べる頻度」が82.3%と最も多く、次いで「家から発生する粗大ごみの量」が71.7%、「家から発生する食品・食材の直接廃棄（未使用のまま捨てたもの）の量や頻度」が70.6%となっている。

ライフスタイルとごみの発生状況で「減少した」ものは、「外食をする頻度」が58.3%と最も多く、次いで「食品・食材の買い物に行く頻度」が23.8%となっている。

新型コロナウイルス感染拡大に伴うライフスタイルの変化<令和3年度（2021年度）>



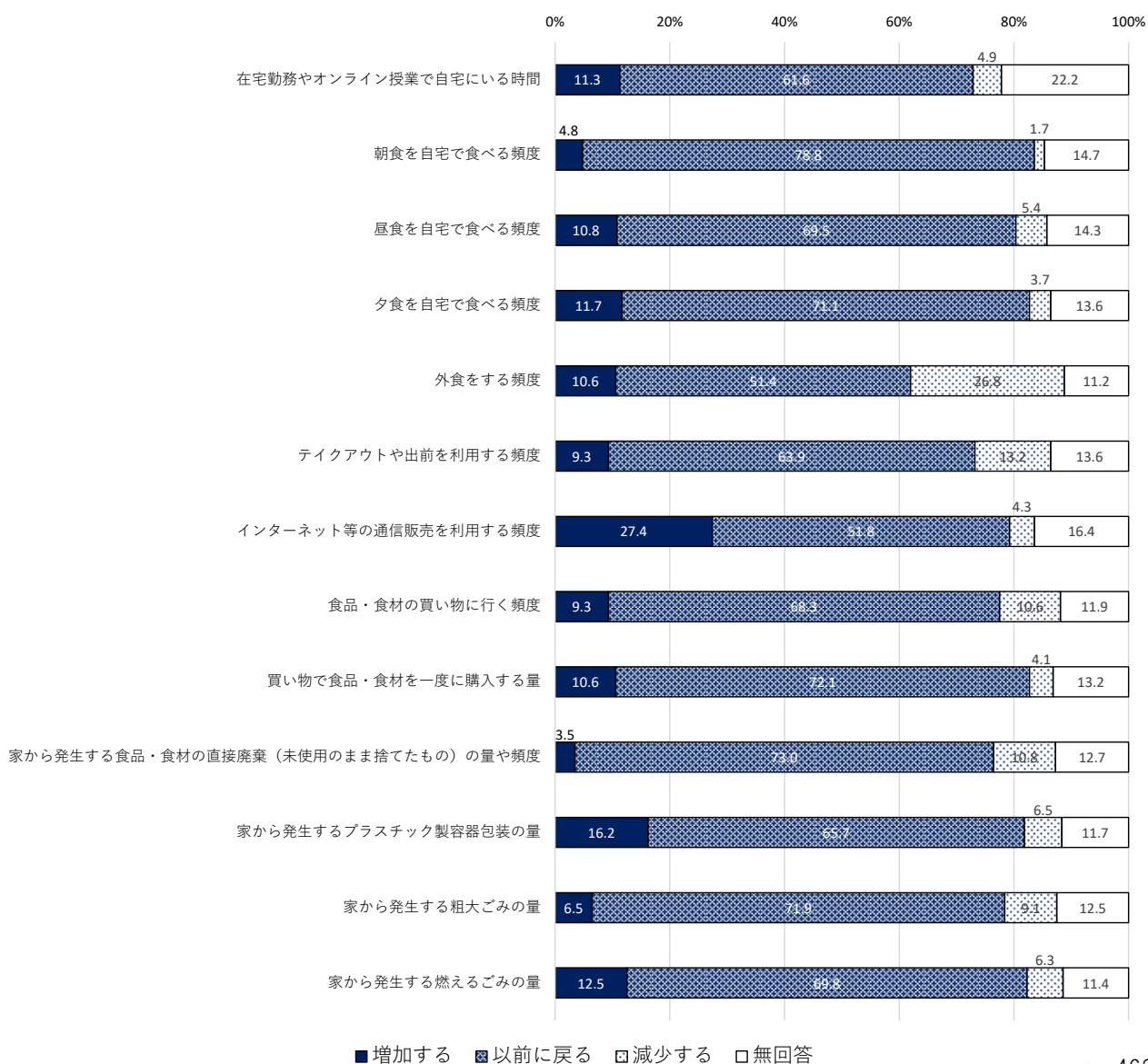
●今後の見込み

ライフスタイルとごみの発生状況で「増加する」と見込まれるものは、「インターネット等の通信販売を利用する頻度」が27.4%と最も多く、次いで「家から発生するプラスチック製容器包装の量」が16.2%となっている。

ライフスタイルとごみの発生状況で「以前に戻る」と見込まれるものは、「朝食を自宅で食べる頻度」が78.8%と最も多くとなっている。

ライフスタイルとごみの発生状況で「減少する」と見込まれるものは、「外食をする頻度」が26.8%となっている。

新型コロナウイルス感染拡大に伴うライフスタイルの変化<今後の見込み>



n=463

以上